

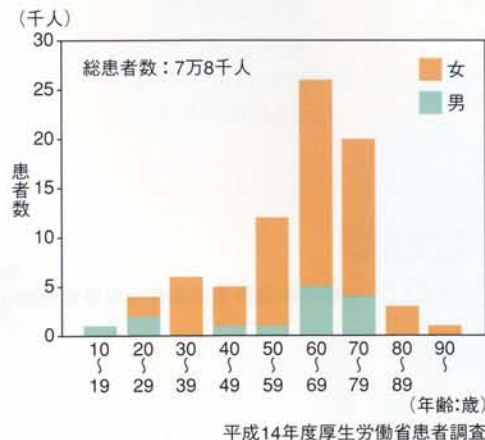
シェーグレン症候群って？

シェーグレン症候群は、だ液や涙が出にくくなる病気です。あまり聞きなれない病気かもしれませんが、それぞれの製造工場である「だ液腺」や「涙腺」に、何らかの原因で慢性の炎症が起こって発病します。気づかないまま放っていると、進行していることがあるので要注意です。



◎患者数は？

シェーグレン症候群は、男性よりも女性に多くみられます。調査によると平成11年度に4万3千人だった患者数が、平成14年度には7万8千人と増えていきます。実際には数十万人の患者がいると考えられており、病気だと気づいていない人が多いことに変わりはありません。



平成14年度厚生労働省患者調査

◎「免疫」に関係しています

シェーグレン症候群は、医学的には関節リウマチと同じ「自己免疫疾患」の仲間です。原因は不明ですが、本来はからだを守るはずのものが、だ液腺や涙腺などの外分泌腺まで攻撃してしまうため、全身的に湿った状態になるのです。

シェーグレン症候群は、単独で発病する場合と、関節リウマチなどの膠原病に合併して発病する場合があります。

<検査法>

シェーグレン症候群の検査には、だ液の分泌量や涙の分泌量を調べる検査、抗体反応を調べる血液検査などがあります。

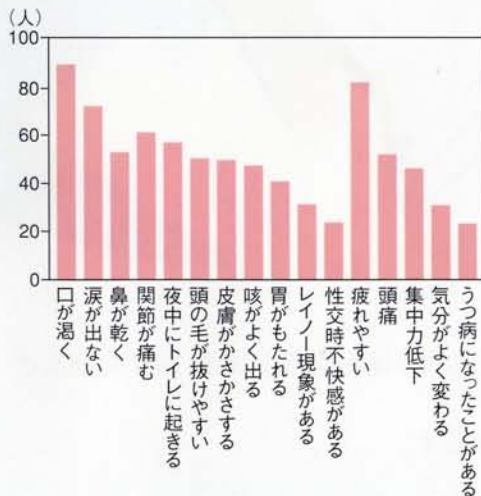
その症状は？

シェーグレン症候群のおもな症状は、口や目などの乾燥症状ですが、関節や関節の周囲に痛みが出る人もいます。ほかの病気が原因のこともあるので、医師による正しい診断が必要です。

また、いろいろな病気を合併することが少なくないため、その診断も大切になります。

◎おもな自覚症状

シェーグレン症候群の患者さん100人へのアンケート結果によると（下の図）、最も訴えが多いのは「口が渇く」で、そのほかにもさまざまな症状がみられます。



菅井進：MEDICAL DIGEST 50(5), 2001

◎おもな合併症

関節リウマチや全身性エリテマトーデス、強皮症などの膠原病だけでなく、さまざまな症状のうしろに、ほかの病気が隠れていることがあります。

- 関節・関節周囲の痛み（関節炎、腱鞘炎）
- 息切れ、カラ咳（間質性肺炎、慢性気管支炎）
- 胃もたれ（胃炎）
- 寒さで指が白～紫色に変化・しびれ（レイノー現象）
- 皮膚の赤や紫の斑点（環状紅斑、紫斑）
- その他（慢性甲状腺炎、原発性胆汁性肝硬変、腎尿管アシドーシス）